

【校長通信 5月10日号】

まだまだ気を抜いてはいけません

皆様もご存じの通り、緊急事態宣言が5月31日まで延長されることになりました。

コロナ対応を継続していく必要があります。

GW中、「STAY HOME」ご苦労さまでした。こんなGWは私も初めての経験でした。

GW後、感染者数が全国的に減少してきてはいます。(ただ、GW中、PCR検査がどれだけ実施されていたのかわかりません。これだけで終息に向かっていると本当に言えるのでしょうか?)

また、休業要請がGWまでということで、街の中では、恐る恐るですが、経済活動再開に向けて準備段階に入ってきたように感じます。「いのちを守る」と「経済活動をしていくことで、生活を守る＝いのちを守る」こと。時間が経過し、コロナに関していろいろなことが解明されてくる中、前述の2点は、ともに「いのちを守る」という点においては同じです。これらに関して、折り合いをつけながら、社会生活を維持する道を模索していくという段階に入ってきました。(グローバルな目で見れば、ドイツが非常に先進的な取り組みをしています。)

慎重にすべきことなので、もう少し時間がかかるかもしれませんが、しっかりと見ていきたいと思えます。

「新しい生活様式」が提唱されている中、授業のあり方、学校生活、クラブ活動、学校行事等に関して、新たな視点で見ていく必要があります。学校も企業もわれわれの日常生活も「生まれ変わる」ことが前提になるのではないかと思います

(特に学校行事に関しては、先日、お知らせいたしましたが、5月の行事は全て、中止または延期となります。延期に関しては、学校再開後、日程等の調整を行います。)

変わらしましょう、対応しましょう、未来に向かって歩き始めましょう、みんなでやります。いのちを守るために。

クラブ活動について

みんなが集まって、活動ができないまま、1か月以上が過ぎました。

そのような中、いろんな大会が中止になってきています。

高校三年生、中学三年生が毎日どんな気持ちで生活しているのでしょうか。私の想像をはるかに超えた気持ちで日々を過ごしているのだと思います。正直、かける言葉がありません。

ただ、ひとつだけ言えることは、この一番つらいときに結ばれた信頼関係は最も強く、貴いものだと思います。

ひとりでやっているんじゃない、仲間がいます、家族がいます、担任、顧問がいます。君たちは、多くの人に支えられて生きています。

なんくるないさ～沖縄の方言から

沖縄地方の方言に「なんくるないさ」というのがあります。この言葉はよくご存じでしょう。なんくるないさは、「そんなに思いつめなくても何とかなるさ」という南国風に楽観的に物事を考えようという意味だと紹介されることが多いと思います。しかし、決してそんな楽観的なものではないのです。(地元の人に伺いました。)

実は、なんくるないさの前に、「まくとうそーけー」という言葉が付きます。

「まくとうそーけーなんくるないさ」となります。「まくとうそーけー」とは、「誠実にいっしょうけんめいがんばっていれば」という意味なのだそうです。どんな困難なことにぶちあたっても、この言葉の内容を自分に言い聞かせ、自分を鼓舞し、そして再度立ち上がる時に、心の底から吐く言葉が「まくとうそーけーなんくるないさ」という言葉なのだとは私は理解しています。

沖縄の島々は石灰岩でできていて、畑にするのには不向きです。そういう条件でも育つさとうきびを植えて、それを生業にしてきました。

いっしょうけんめい育てたさとうきび、台風がやってきて、一瞬にして収穫できなくなったこともあると思います。こんなとき、沖縄の人々は「まくとうそーけーなんくるないさ」と言って、明日に向かって生きてきたのです。

また、沖縄地方は、海洋王国で貿易の要衝拠点であり、中国と日本(薩摩)の両方に属していた時代が長く続きました。それは両方に税金を納めるということでもあり、経済的には大変であったということが推測されます。

そのとき、この言葉を糧に沖縄に人は頑張ってきたのだらうなあと思われます。

今は、世界中の人々が「まくとうそーけーなんくるないさ」なのかもしれません。

いい季節になってきました。三密を避けて、外へ出て体を動かしましょう。

夜明けの来ない夜はありません。

「2020年の5月」、限られた条件下ではありますが、自分のあるべき姿、目的を見失わず、新しい生活様式に少しずつ慣れていきましょう。

「強いものが生き残ったのではない。変化に対応できたものだけが生き残ったのだ」進化論を唱えたダーウィンの言葉とされています。

しぶとく生きよう！ コロナに負けるな！

「勇気、元気、笑顔」を忘れない！ 常に前向き！！

箕面自由学園中学校・高等学校

校長 田中 良樹